



一宮市本町商店街



キャッチフレーズ

全国屈指の 全蓋式アーケードの街

事業実施の背景

全国でも有数の繊維の街である一宮市で、古くから真清田神社の門前町として発展してきた本町商店街(本町通1丁目、2丁目、3丁目、4丁目商店街振興組合)は昭和31年に日本最長といわれるアーケードを建築した。

歩道の上のみに屋根がある片屋根式であったが、当時は、画期的なスタイルとして注目を浴び、これを契機に第1回「一宮七夕まつり」が開催された。以後、一宮といえば、アーケード、七夕まつりといわれるほど、市のシンボルとして親しまれており、本町商店街が市の顔として発展してきた大きな要因の一つである。

事業の概要

全蓋式アーケードの建築

昭和46年、全国屈指の規模(約500m×15m)による全蓋式とし、天候に左右されることなく、催事を開催することができるようになった。これにより、アーケードの天井から飾りつけを壮麗に吊り下げることができ、「一宮七夕まつり」が全国的にも有名な七夕まつりになったほか、市における主要な行・催事が本町商店街で開催されるようになった。

平成12年に、2丁目から4丁目までのアーケードを、最新式のデザインを採り入れたものにリニューアルし、魅力ある新しい街づくりを目指して、様々な取り組みを行う拠点となっている。



一宮市

事業の効果

本町商店街アーケードの広い空間を活用して、開催されている主な催事等は次のとおりであり、一宮市の中心市街地の発展に大きく貢献している。また、大型店が撤退したにもかかわらず、平日を中心に活気を維持している。



・桃花祭（4月3日）

真清田神社の例大祭。初日は子供獅子が練り歩き、2日目の大祭では、真清田神社まで御神輿の渡御と献馬の行列が繰り広げられ、アーケード内は時代絵巻一色になる。



・本町鯉のぼりフェスタ（4月中旬～5月上旬）

平成8年から開始。市民から使われていない鯉のぼりを募集し、アーケードの空間に飾り付けて元気に泳がす。今では500匹以上が集まり壮観である。



・一宮七夕まつり（7月最終日曜日を含む前4日間）

色とりどりの吹流しや吊り下げ飾り、動きも楽しいアーチ式仕掛けものなどによる絢爛豪華さは、内外の観光客から高い評価を得ている。会期中の人出は130万人を超える。



・おいち祭り（10月第4週の土日）

毎年、子供から高齢者まで、市民が主役となって、歌や踊り、パフォーマンスなどが行われ、アーケードがステージに変身する。

事業の課題

平日や行催事を開催する週末はにぎわうが、それ以外の週末は商店街の周辺にあった大型スーパーの撤退により街の回遊性が失われたため、来街者が減少している。行催事の開催効果を開催時以外にも波及させる工夫が必要。

一宮市本町商店街

所在地：一宮市（JR尾張一宮駅、名鉄一宮駅東）

問合せ先：会長 安藤元二

電話（0586）72-2947

